

## 2020年度オンライン留学報告書

応用生物科学部・農芸化学科・2年・47819021・大澤 凜花子

COVID-19 は私たち学生の勉強する場だけでなく、確実に精神的な面でもむしばんでいた。「大学は人数が多いからしょうがない」「つらいのはみんな一緒」「責任感のない若者」そのような言葉をメディアから、街角から、身近な人から受け取るたびに本当に苦しくてたまらなかった。このまま2020年の夏は、虚無感と共に過ぎ去っていくのだろう、、、そう思った矢先このオンライン留学のお知らせを見つけた。そして何も迷わずに申し込みボタンをクリックした。この留学への参加は「勢い」だったといっても過言ではない。今思うと、こんなに英語に時間を割いたのは初めてかもしれない。

### 1. オンライン留学に参加した目的について

そもそも私は、英語が大の苦手だ。人は苦手なものに挑戦することや手を出すことを拒む。私もその中の一人で、英語を真剣に学ぶことをずっと後回しにしていた。自分の「できないもの」から目を背けていたかったからだ。一方で、私には二つ夢がある。一つ目は途上国支援に携わること、二つ目は世界中の人々と友達になることだ。高校生の頃から変わらない途上国支援に携わるといふ夢への想いは、日に日に増していつている。しかしこの夢を叶えるためには、語学力は必須である。もちろん途上国支援は語学力なしでもできることはたくさんあると思うが、私は途上国の人々と直接話して交流する現場で働くことを望んでいるため、会話の武器になる語学力はとても重要である。途上国の人々は英語ではなく現地語を用いる人が大半であると思うが、まずは共通語である英語を深く学んでいてマイナスになることはない。したがって、自分の夢に近づくためには、本気で英語に立ち向かわなくてはならなかった。二つ目の世界中の人々と友達になるという夢も、彼らと会話する上で英語力は必須である。小学生の頃、自分の周りには偶然ハーフの子や外国人の友達が多く、それが自然な環境だった。そこで日本人と外国人、と区別することもなく自分にとって色んな国の人々が周りにいる環境が「普通」だった。しかし中学、高校、大学と成長するにつれ、その環境は「普通」ではなくなった。自分から手を伸ばさないと外国人や留学生と知り合うこともできないし、日本人以外の子と交流することは普通ではなく「稀」、それが日本人の「普通」になっているように感じた。私にとって、この環境はとても窮屈なものであった。なぜなら異文化に触れることが好きで、様々なタイプの人と交流したい思いが強いため、「同じような考え方の人としか交流せずにグループ化してまとまる」といった日本人特有の考え方がどうしても理解できなかったからだ。そして「属するグループに反する考えを持つ人は攻撃される」という考え方も同様に、私を苦しめた。大学に入学して、世界中の人々と友達になりたいという思いは強くなっていった。積極的に留学生と交流したり、去年は短期留学にも参加した。いつか世界のどの国に行っても自分の友達がいる、そのような生活を目指している。

まとめると、このオンライン留学に参加した目的は、将来の夢や世界中の人々との交流・会話をスムーズにするための武器を身につけるためである。そして大の苦手である英語を克服する方法を模索するためだ。このような目的をもって、一か月間のオンライン留学は始まった。

## 2. 印象的だった講義内容や感想について

オンライン留学が始まる期間と大学のテスト期間が被っていたため、第一週目はかなりドタバタしていたことを覚えている。しかしこのオンライン留学の良い所は講義の時間が必ず決まっていた、さらに実際に現地の大学に通わずともパソコン一つで参加できるため、かなり融通が利いた。それがオンラインの最大のメリットであったように感じる。一週目は **Living in Communities**、二週目は **Sports**、三週目は **Fast Fashion**、四週目は **Global Citizen** というようにプログラムは一週ごとにトピックが分かれており、それぞれのトピックについてクラスメイトや先生と考えをシェアして、さらに深めていく。クラスメイトは農大の日本人が主だが、週二ペースで UBC の生徒や先生の知り合いなどのゲストが招待され、インタビューを通して一緒にその日のトピックについてディスカッションする。なので先生以外のネイティブな英語に触れられる機会はたくさん用意されている。ゲストはどの方も気さくで、ポジティブで、アクティブなので、私はこの時間が一番好きだった。また、クラスを担当する UBC の先生も本当に面白い方で、時折先生の自宅の庭やその日着てるかなり独特な T シャツの紹介など、私たちクラスメイトのことを気遣ってクラスの雰囲気明るくしようと笑顔で、面白い話をたくさんしてくれた。先生の雰囲気づくりの影響もあって、初めて同士のクラスメイトとも打ち解けることができた。オンラインだと中々友達づくりは難しいと懸念していたが、そのような心配は全くいらなかった。このコロナの影響下でも新一年生の参加率も高く、様々な学年・学科の人と関わることができて楽しかった。同じような夢を持った人や、趣味が似てる人などにも出会えた。この状況が収まったら、いつかオフ会ができることを密かに楽しみにしている。

また、私は授業時間以外にもネイティブな英語に触れる機会に挑戦しようと、**Cultural Assistants (CAs)** という留学生のサポートをしてくれる UBC の生徒の方と、週一で1時間交流するものに参加した。(これは強制ではなく任意) この時間を利用して、私は授業で出された宿題を手伝ってもらったり、お互いの最近の出来事をフリーで話したりするなど、直接会えなくても UBC の学生と交流することは可能であることがわかった。私の一番の目的は、英語でスムーズに話せる会話力の向上だったので、この時間はとても有意義であった。単語がわからなかったり、文法が間違えているとしっかり直してくれるので、会話力以外のスキルも改善される。他にも CAs が主催しているイベントはほぼ毎日開催され、**zoom** や **Instagram** などを利用して多様なトピックに関する企画を行っていた。これは息抜きになって、さらに他の UBC の生徒とも関われるきっかけになるのでもとても楽しかった。私は **Volunteering for the Environment** という自然環境を守るために自分たちに何ができるか、何が必要か考える企画に参加し、とても勉強になった。さらにカジュアルな企画

になると、カラオケ大会やバンクーバー散歩、旅行記などワクワクするものがたくさんあった。CAsの方々はアクティブすぎる人ばかりで、とても刺激を受けた。

さらに、クラスの先生の友達を紹介してもらって、zoomを用いて30分程度のインタビューをさせてもらった。その方はカナダに住んでおり、退職するまでずっと途上国支援に関わる仕事をしていた。このインタビューをしようと決断したのは、海外の方はどのような思いで途上国支援に携わっているのか知りたかったからだ。質問も用意してインタビューに挑んだが、実際にやってみるとインタビューはかなり難易度が高かった。質問の答え以外にも体験談などをたくさん話してくれたのだが、途中から話の内容に追いつけなくなってしまい、理解できてないままインタビューを終えてしまった。この経験から、まだまだ英語での会話力が足りないことに気づき、さらにネイティブと会話する機会を設けなくてはならないことを痛感した。

授業も授業以外での時間でも、私はポジティブとネガティブのどちらの刺激も受けることができた。ポジティブな刺激は自信に、ネガティブな刺激はエネルギーに変えることを意識しながら、この一か月を無駄にしないようこれからさらに努力していこうと思う。

### 3. 目的達成度の自己評価

もう一度確認すると、私のこのオンライン留学の目的は、将来の夢や世界中の人々との交流・会話をスムーズにするための武器を身につけること。さらに大の苦手である英語を克服する方法を模索することだ。達成度は80%くらいだ。まず自分の行動を振り返って良かった所は、英語で話すことに億劫になって黙り込まないこと、挑戦心を持ち続けたこと、英語への苦手意識が小さくなったことだ。英語で話すことに億劫にならないことは、最初の時期にクラスの先生に「話す力をつけたいならしゃべり続ける」とアドバイスされたことをきっかけに、言いたいことが上手く英語で表せなくても、伝えたい単語が出てこなくても、とにかくしゃべり続けた。他の人が発表してる場面でも小声で復唱したりして、口を閉じないことを意識し続けた。最初の時期は、苦手な英語に挑戦するのは本当に辛かったが、後半では英語でしゃべることが楽しくなっていた。もちろん、ボキャブラリーが倍増したりペラペラにしゃべれるようになったなど、急激な変化はなかったが確実に以前よりもしゃべれている自分がいた。それによって長年縛られていた「英語が苦手」という心理から解放されたように感じる。苦手な「好き」に変えることができただけでも大進歩だ。また、コロナの影響で虚無感に浸る日々から脱却し、挑戦的な姿勢をとり続けることができたのは、自分にとってポジティブな経験になった。逆に、自分の行動を振り返って悪かった所は、何度か授業時間に遅れてしまったこと、聞き取れなかった会話部分のフィードバックが十分ではなかったことだ。授業時間に遅れてしまうというのはオンラインだからこそ余裕があると思って気が抜けていた部分であり、深く反省している。オンライン授業で通学時間がないからギリギリに準備するのではなく、本来の通学時間を授業前の自習の時間に変換するなどして、自分で改善するべきだった。聞き取れなかった会話部分のフィードバックは、zoomのレコーディング機能をもっと活用するべきだった。インタビューの

時でしかそのレコーディング機能を使わなかったので、クラスメイトが了承してもらえるのであれば、その機能を使って復習したらより良い学びができたのではないかと思った。

#### 4. 今後の取り組み

一番大切になっていくのは、間違いなく私自身の今後の取り組みだ。留学を経験したからといって、その経験を利用して次のステップに挑戦できないのであれば、あまり意味がない。そこで、より自分の二つの夢に近づくためにこれから挑戦していかなければならないことがある。一つ目は会話力。これは定期的に留学生の友達と会話したり遊びに行く中でスキルを維持し、会話力に特化した教材や動画、TV 番組を見ることを習慣化させたい。二つ目は TOEIC への挑戦。私の学科は 12 月に TOEIC を受けなくてはならないので、それまでに Reading と Listening、Writing の三つの分野に分けて勉強していき、目標点を達成したい。三つ目は新しい語学への挑戦。去年の台湾留学からずっと中国語を勉強して台湾の友達と中国語で会話したいという思いがあるので、本格的に挑戦したいと考えている。

#### 5. 次年度以降参加者へ、事前に準備・勉強しておくべきこと

- ・電子辞書（授業中に横に置いておくと便利）
- ・ポキャブラリーを増やしておく（私はこれが十分できないまま参加したため最初の方はかなり戸惑った）
- ・パソコンやタブレット端末
- ・恥ずかしがらない！
- ・笑顔と挑戦心とやる気があれば、UBC の方々は必ずフォローしてくれる！！

